

地域福祉の充実に向けて社会福祉大会

10月27日、東川町社会福祉協議会(桑原良一会長)は町文化芸術交流センターで第40回東川町社会福祉大会を開きました。



町内の民生委員児童委員、青少年問題協議会委員、シニアクラブ連合会、町内自治振興会などから約150人が参加しました。今年4月から就任した桑原会長は、「地域で支え合うことが出来る社会の実現を目指す」と改めて地域福祉の充実を訴えました。

東川第一小学校、松田京さん(6年)、東川高校の添田沙樹さん(1年)、旭川福祉専門学校志戸田紘希さん(2年)、東川第二小学校の松浦日和さん(6年)の4人が登壇。地域福祉とのかかわりに意欲的な意見を発表しました。

大会上、社会福祉活動に功績のあった5人4団体を表彰しました。◇東川町社会福祉協議会会長表彰 表彰状 篠原益夫(シニアクラブ連

合会役員5年)▼感謝状 川上隆司(会長職2期4年、副会長職1期2年)、大石久子(社会福祉協議会役員理事職3期6年)、石山ゆみ子(ボランティア実践)

自然と親しむ東川アウトドアフェス 11月12日、町文化芸術交流センター(旧東小)で東川アウトドアフェス(旧東小)で東川アウトドアフェスティバルが開かれました。カナダ・バンフで開いているアウトドア・フィルム祭典「バンフ・マウンテン・フィルムフェスティバル」の過去の作品の中から、7作品を選んで上映しました。マウンテンバイクでトリッキーな走

りを見せる「アンリアル」、南米の美しい自然とカヤックのスリリングな滝下りの冒険を記録した「ビヨンド・ザ・ドリッパ」など、息を飲む美しい自然、そして生死と表裏一体の冒険映像の数々。



東川を舞台に、上士幌町、札幌市、東京都内在住の3人の写真家が制限時間36時間で制作した写真映像作品を競うスライドセッション、有名アウトドアブランドのグッズなどイベントコーナーも多彩。町内飲食店の軽食、飲み物販売コーナーに立ち寄りながら、催しを楽しんでいました。

全日本マスターズ2連覇の植田さん、世界でも金

北町2、植田豊さん(81)が第22回世界マスターズ陸上選手権大会(10月26日~11月6日・オーストラリア・パース会場)に出場し、80歳クラスの400メートルで金メダルを取って帰国しました。



80歳クラス800メートル(ハードル)、200メートルの得意2種目と400メートルにエントリー。しかし競技前の練習中に左ふくらはぎの筋肉断裂を起してハードルを踏み切れなくなり、80歳代クラスの400メートル競技だけ

者(85)青森県は、80代400メートル、200メートルの世界記録保持者というチームでした。2位は地元・オーストラリアチームでしたが、優勝を逃した現地では「70歳代、75歳代で優勝したので、80歳代種目で負けたのが悔しかったんじゃないか」と地元の落胆ぶりが大きいように感じたそうです。

2走(84)神奈川県は中距離得意の強豪、3走(85)東京都は棒高跳び選手、アンカーの走

台湾の人気俳優、ツイン・ユンが東川を取材

台湾の人気俳優、ツイン・ユンさん(32)と錦榮、別名ビビアン・ドーンがテレビ番組の取材で来町しました。



日本語学校教室で(11月14日)

がら入ったんだ」と雪見風呂、パウダースノー体験が新鮮な驚きだったよう。日本語学校では、台湾からの女子留学生を中心に「えっ? ツイン・ユンが来るよ」とざわめきが起こりました。

台湾の衛星テレビ放送アジアトラベルチャンネルの番組「ムービング・キャッスルの旅」の案内役ホスト。世界をキャンピングカーで旅し、自然、文化、人々との交流に触れて、旅の醍醐味を視聴者に届けるという人気番組です。日本の旅先として東川町が選ばれました。

11月5日から10日間の来道中、東川には6日間滞在してロケ取材しました。キトウシ森林公園、旭岳温泉、町立日本語学校を訪問し、東川神社でおみくじも買って連立し、日本舞踊、陶芸制作、暗室で白黒写真の現像、剣道練習にも参加しました。町内の居酒屋ではおいしい魚料理にも舌鼓。

ドイツ滞在ロケからまっすぐ来日したそうですが、旅の疲れも見せず連日精力的。雪の旭岳ではホテルで温泉にも入って「パウダースノーが顔にプワッと当たるんだよ。なんて素晴らしいんだ! 温泉は外の雪をかぶりな

新米給食始まる

11月7日、町内の小、中学5校でそろって体験農園で刈り入れた「きたくりん」を使って新米の給食が始まりました。

東川小学校(大久保善邦校長、35人)のメニューは、「きたくりん」のごはんと鮭の切り身、大根、人参、じゃが芋が入っているみそ汁仕立ての「どさんこ汁」、厚焼き玉子、野菜炒

新酒発売! 「2015ひがしかわワイン」

「2015ひがしかわワイン」発売開始に向けて、11月14日岩見沢市内の10Rワイナリー(トアール、ブルース・ガットラブさん経営)で、セイベル種ワインのボトルング作業を行いました。準備も万全に整って、12月1日、ひがしかわワインの新酒新発売。



出荷前最後のキャップシール張り作業

昨年の収穫量は2・76トン。一年に比べてほぼ半減しました。例年より遅い収穫で完熟ぶどうを仕込みました。10Rワイナリーで東川産ぶどう原料のワイン造りを始めて3年目。木樽仕

アルコールド数は11・5パーセント。ブルースさんによると、イチゴ、木イチゴ、スモーク、コーヒーとハーブの香りを合わせ持つセイベル種の上品さを演出しているそうです。口当たり豊かなミディアムボディで、後味は長く、酸味とのバランスがフレッシュで良い、と評価しています。

米作りを管理した町学社連携推進協議会体験農園専門部会(青木健太郎会長)の菅沼順稚副部会長は「農業の使用量を減らして作ったお米です」と出来栄を紹介しました。稲刈りした5年生の代表は「体験して思っ



たのは、手で刈る大変さです。昔の人はこれを何時間もやっていたのですが、今なら思いました。昔はコンバインに乗らないで稲刈りしたのです。感動を披露。給食のおいしさをひととき感じていたよ